

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	「ケニアにおける循環型社会形成を目指したリサイクルバッグの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業」(通常枠)
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 Little Bees International
(3) 実施期間	2020年9月18日～2021年9月17日
(4) 実施国	ケニア共和国
(5) 活動地域	ナイロビ市 Baba Dogo 地区
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>ケニアの首都ナイロビでは、中国資本を中心にした大規模インフラ整備・開発が進む一方、極端な貧富の差が拡大し、失業率も高止まりのまま、住民の30%以上が1日1.9ドル以下の最貧困ラインでの生活を余儀なくされています。また、急速な開発は環境破壊を進展させ、ナイロビ市の中心部を流れるナイロビ川の河川敷もゴミで覆われ、空気、土壌、水の環境汚染も深刻化しています。さらに、貧困層住民10人のうち4人がHIV陽性といわれ、またその内5割近くの女性がシングルマザーの状況にもあります。貧困家庭の子どもたちも4割近くが学校に通えない状況にもあります。そうした環境を改善するためのエンパワーメント事業が、本事業になります。隣接するジーンズ工場から排出されるデニムの余剰生地は耐性も強く、2013年から中古衣類・デニム生地をリサイクルして、子どもたちのためのスクールバッグを生産・販売しています。生産メンバーは、シングルマザーやHIV陽性の女性たち。2017年9月からはビニール袋が使用禁止になり、女性たちの買い物用のエコバッグの製作にも力を入れています。スクールバッグは、子どもたちに無償配布もされています。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>地域における循環型社会の形成、及び脆弱な環境に置かれている女性たちのエンパワーメントのため、リサイクルバッグ・エコバッグ生産のためのキャパシティを拡大する。作業環境のスケールアップを図ると同時に地域住民のリサイクル意識の向上を促し、女性たちの収入向上と自立を目指す。製作するリサイクルバッグには、「Stop Child Labors!」や「Education is Power」といったメッセージをつけることにより、スラムコミュニティへのアドボカシー効果も狙います。SDG1・5・12の達成を目標に循環型社会形成と女性の収入向上の一環として、事業のスケールアップを狙います。</p>

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容

【実施内容①：キャパシティビルディング（環境整備・資材調達）】

2020年9月から、新型コロナの感染予防対策として新たに十分なスペースの確保できる作業場を設置し、作業に参加する女性たちの健康管理のため専属の Community Health Worker (CHW) も配属し、手洗い用の消毒薬も常備、検温も常時実施いたしました。また、年間を通じて新規にミシンも10台購入し、一度に20名以上が同時に作業できる体制も整備しております。このことにより、より多くの女性たちが順番を待たずにより頻繁に活動に参加することができ、バッグの生産性の向上とモチベーションのアップにもつながっています。

【実施内容②：キャパシティビルディング（スキルアップの技術指導・裁縫研修）】

裁縫専門家の Ruth さんにも定期的に技術アドバイザーとして活動に参画してもらい、初心者の方でもミシンの使い方の指導が受けられるなど、作業に参加しやすいよう環境の整備と、作業に参加する女性たちの技術の向上、バッグの品質の改善も図りました。さらに、ケニアで30年近く活動実績のある NPO 法人アフリカ児童教育基金の会 (ACEF) で裁縫研修を実施。ACEF の職業学校で20年近く教鞭をとる講師の方から、朝は8時くらいから夜は19時過ぎまで、みっちり裁縫の基本と応用技術、エコバッグのデザインについて学んでいます。研修に参加することで女性たちも技術の向上はもちろん、自らの能力に自信を持てるようになり活動に活気も出て参りました。さらに研修参加者同士のコミュニケーションも格段に深まり、女性グループ内の関係性の進展、エンパワーメントにもつながっています。

【実施内容③：マーケティング・アドボカシー戦略の立案策定】

裁縫専門家の Ruth さんからバックのデザインのアドバイスを頂きながら、様々なデザインにも挑戦しました。市場での評価（売り上げ）は、必ずしも挑戦と共に右肩上がりになったわけではありませんが、グループとして試行錯誤する中で、バッグ製作の活動の魅力も掘り起こされ、女性グループ全体のモチベーションの向上にも繋がっています。また、バッグにつけるアドボカシーメッセージでは、女性たちから様々なアイデアが出、特にコロナの感染防止が急務とされる社会情勢も相まって、「マスクをつけよう」「手を洗おう」などのメッセージを付けたバッグは、市場だけではなく、NGO/NPO を中心とする草の根の市民社会セクターでも評判になり、公衆衛生の意識向上を目的とするパブリックの会議でも女性グループは招待され、バッグ活動のプレゼンを「女性グループによるコロナバスターズ」の活動として紹介されています。教育の大切さや女性や子どもたちの人権を守るメッセージもつけることで、社会の意識改革にもつながっていけるよう今後の活動の広がりにも期待もしています。

評判を聞いて、直接作業場までバッグの吟味に訪れるエージェントの方たちも出て参りました。また ACEF での裁縫研修も通じて、エコバッグのデザインも見直し、さらに市場で評価を得るための創意工夫も深めています。団体が教育活動で提携する6つのコミュニティスクールでも子どもたちへのバッグの無償配布や、それぞれの学校の入り口や職員室等でのバッグの展示も行われ、保護者の間でも問い合わせが出るなど、新たな市場開拓の糸口ともなっています。

【実施内容④：支援の拡充に向けた広報戦略の立案策定】

団体が実施している毎回100名上を動員するコミュニティホールでの”Mottainai”環境セミナーは、残念ながらコロナの感染防止のため、2021年度に入ってから開催を見合わせており、そこでのバッグのプロモーション活動は制限されてしまいましたが、”Mottainai”という言葉と共に環境活動も推進する団体の広報の効果もあって、アドボカシーバッグの中で”Mottainai”という言葉のついたものが一番人気にもなるなど、活動の手ごたえも感じてきております。また、女性グループのチラシも新たに製作していますが、現地で大変好評で、活動に参加したいとの問い合わせも増えており、作業場を管理する現地スタッフもスケジュールのやり取りに追われ、うれしい悲鳴をあげています。

(2) 実施成果：

2020年3月から7月までナイロビの都市封鎖が行われ、8月から国際空港の再稼働が始まり手探りの中の本事業のスタートとなりましたが、貴基金様の手厚い御サポート、現地の女性グループ、リーダーたちの熱意と頑張り、そして地域の人々と現地で活動を行っている日本のNPOの皆さまの御協力によって、円滑に活動を遂行、終了することができました。改めまして厚く御礼申し上げます。

終盤に差し掛かるまで渡航が出来ず、日本からのオンラインでのやり取りが多く続きましたが、活動を続ける中で、女性グループの参加者の皆さまの活動へのコミット具合、そして製作するリサイクルバッグの質も、どんどん高まっていったことが現地からの報告、そしてバッグの完成度の高さからもよく理解することができました。何より、現地からの報告の音が、とても元気があって力強いもので、日本から連絡する私たちも心配なことが多い中、本当に勇気づけられました。

どうしても日雇いの洗濯業や、路上での食材の調理販売といった限られた職種にしかアクセスできない、またHIVの感染率も高く、養う子どもたちも多いシングルマザーの女性たちにとって、本事業が提供した、循環型社会形成のためのリサイクルバッグ製作活動は、女性たちに居場所を提供しただけでなく、自らのスキルに自信を持ち、不安や心配事を共有できる仲間たちとの絆の醸成にも大きくつながっています。

また、活動を通じて、新型コロナウイルスに対する情報も共有し合い、そのことも理解の一助となって女性たちのエンパワメントにつながっています。

アドボカシーバッグも、いくつかのメッセージ(「Mottainai, Reduce, Reuse, Recycle」「Put on your mask at all time」「Education is power. Stop Child Labor」)を付けて製作しておりますが、この中でも一番人気は、日本の「Mottainai」の表記があるものになっており、循環型社会形成のための基本概念として「Mottainai」を広める活動も団体として継続しておりますが、成果が表れてきたことを本当にうれしく感じております。

(3) 得られた教訓など：

難しい事態の中での活動が続きましたが、その分、アフリカの女性たちの豊かな精神性とたくましさ、協調性を実感できる活動となりました。最初は、活動の継続性を不安に感じるところもございましたが、やはりしっかりとした居場所の提供が、活動へのメンバーのコミットメントにもつながること、絆の関係性の構築が、草の根での活動での大きなモチベーションとなり、推進力となることも実感しております。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

引き続き、リサイクル・アドボカシーバックの製作に取り組んで参ります。活動を通じて、リサイクルの大切さを女性たちは学んでおり、団体が行っているプラスチックの分別回収活動にも一層の熱意がみられるようになるなど、波及効果も見られるようになって参りました。コロナ期間ということもあり、研修にも十分な人数が参加できず、技術の向上の余地もまだまだございます。エコバックのデザインのアイデアもどんどん提案が上がってきています。現在登録している約40名のメンバーがこのまま継続してスキルアップを図り、循環型社会の形成のための意識改革、リサイクルの促進、そして女性たちの自立支援を目指して、一層のスケールアップを目指して参りたく存じます。(2021年度のJICA基金事業にも継続(2年目)として申請させていただいております。)

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

HIV陽性の女性たちは、日によって体調が変わり、作業に参加できないこともあります。そうした状況の中、活動場所では「今日、ミリセントが来ていないけど、誰か様子を見に行きませんか」などのような、参加者メンバーが互いを気遣う機運も生まれ、実際に訪問して食事や、子どもたちの面倒なども交代で見るとような動きもでてきています。やはり、団体活動を通じて生まれる絆や連帯の形が、女性たちの日常生活の中でもしっかりと根付き活用されていることをうれしく思います。

(2) 活動の写真



(ACEF での裁縫研修)



(月一の全体ミーティング風景)



(製作したエコバックと一緒に)



(バックにつけるアドボカシーメッセージ)



(作業前の検温と消毒)

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

女性グループの多くも、JICA 様のお名前は聞いたことがある、とその認知度は高く、JICA 様の関連した事業ということも、女性たちの活動へのモチベーションのアップに大きくつながっております。また、終盤に渡航をいたしました、その際にも現地事務所との連絡の調整や現地の詳細な情報など、細かいところまで、たくさんの御サポートと御配慮を賜り、本当に助かりました。未曾有のパンデミックの中、難しい期間ではありましたが、無事終了を迎えることができましたこと、温かくお見守りくださいましたことに、改めて団体スタッフ一同、心より感謝申し上げます。